

2017アメリカジャンボリー派遣

報告書



2017年7月18日（火）～31日（月）



そなえよつねに
ボーイスカウト

目次

概要	2
派遣日程	3
準備訓練・結団式	4
アメリカへ	6
サミットベクテル	8
キャンプライフ	10
プログラム	11
奉仕活動	14
レセプション	15
交流	16
配給・食事	18
退場	20
見学	21
帰国	22
団長報告	24
隊長報告	26
派遣員報告	27

概要

名称

2017アメリカジャンボリー派遣

目的

この派遣はボーイスカウトアメリカ連盟が開催する2017年ナショナルジャンボリーに参加し、日常のスカウト活動を通じて体得した知識・技能・精神を一層高め、参加各国スカウトとの親善交歓により国際理解と友情を深めることを目的とした派遣である。

期間

2017年7月18日（火）～31日（月） 14日間

場所

アメリカ合衆国 ウェストバージニア州 サミットベクトル野営場

Summit Bechtel Reserve, 2550 Jack Furst Drive, Glen Jean, West Virginia 25846

ウェストバージニア州イエーガー空港から南東に90km、車で約1時間半

ノースカロライナ州シャーロット・ダグラス国際空港から北に300km、車で約3時間半に位置する

派遣人員	派遣団指導者3人、派遣スカウト9人 合計12人		
派遣団長	水野正人 副理事長、国際コミッショナー		
派遣団長付	大高 駿 事務局 組織・管理部職員		
派遣隊長	嶋田 寛 国際副委員長、国際副コミッショナー		
スカウト	上級班長	石井 柊	埼玉県連盟坂戸第1団
	鷺班班長	小林 竜大	静岡県連盟浜松第19団
	次長	高田 尚央	東京連盟三鷹第2団
	班員	伊藤 匠希	奈良県連盟生駒第8団
	班員	日下 有騎	岡山連盟西大寺第1団
	雷鳥班班長	飽田 雄也	広島県連盟安芸第11団
	次長	森友 陽喬	奈良県連盟生駒第8団
	班員	山形 理徳	大分県連盟大分第2団
	班員	三重野淳也	兵庫連盟西宮第25団

派遣日程

	日付	場所	時刻	交通	内容	宿泊
	7月16日 (日) 7月17日 (月)	ボーイスカウト会館	1300		東京・ボーイスカウト会館にて出発直準備訓練を行い、任命式・結団式を行う	ボーイスカウト会館 (2泊)
1	7月18日 (火)	ボーイスカウト会館発 成田空港(発) --日付変更線通過-- ダラス・フォートワース空港(着) ダラス・フォートワース空港(発) シャーロット・ダラス空港 (着) ホテルへ移動 ホテルへチェックイン	0630 1040 0825 1215 1554	バス AA176 AA2042 バス	ボーイスカウト会館を朝出発し、空路アメリカへ。日付変更線をまたぎ、アメリカに朝到着し、アメリカの国内線に乗り継ぐ。日暮れまでにジャンボリー会場へ到着できないため、ホテルで一泊する。	Holiday Inn Express Charlotte Airport (108 Airport Commons Drive, Charlotte, NC) (ノースカロライナ州 シャーロット市)
2	7月19日 (水)	ホテル(発) ジャンボリー会場(着)	0800 1400	バス	ホテルを出発し ジャンボリー会場へ入場、設営 夜には開会式	ジャンボリー会場
3 10	7月20日 (木) 7月27日 (木)	ジャンボリー会場			<プログラムハイライト> 7月19日(水) 移動・設営・開会式 7月20日(木) プログラム参加 7月22日(土) 7月23日(日) 大集会 7月24日(月) プログラム参加 7月26日(水) 7月27日(木) プログラム参加、閉会式	サミットベクトル野営場 Summit Bechtel Reserve (ウェストバージニア州)
11	7月28日 (金)	ジャンボリー会場(発) シャーロット・ダラス空港 (着) シャーロット・ダラス空港 (発) ダラス・フォートワース空港(着) ホテルへ移動 ホテル(着)	0600 1100 1324 1509	バス AA474 バス	撤営、午前6時にジャンボリー会場を退場 シャーロット空港へバスで移動する。 シャーロット空港から、空路乗継地ダラスへ 向かい、空港周辺のホテルへチェックインする	Best Western Plus DFW Airport Suites (5050 West John Carpenter Freeway, Irving, TX) (テキサス州ダラス市)
12	7月29日 (土)	ダラス			ダラス市内を見学 ・アメリカ連盟本部訪問 ・シックス・フロア博物館 等	
13	7月30日 (日)	ホテル(発) ダラス・フォートワース空港(着) ダラス・フォートワース空港(発) --日付変更線通過--	0800 0815 1055	バス AA175	ホテルを出発し、空路帰国の途へ	機内
14	7月31日 (月)	成田空港(着)	1400		成田空港到着後、解団式を行い、空港にて解散	

準備訓練・任命式

7月16日（日）、参加者は東京のボーイスカウト会館へ集合しました。海外派遣選考会は東西2会場で開催したため、一同が集まるのはこれが初めて。参加者はここで出発直前の準備訓練を2日間かけて行い、日本派遣団の派遣員として任命を受けました。



派遣団長から日本代表としての心構えについて



役務分掌



個人の目標・課題の設定



アメリカ基礎知識



文化紹介パフォーマンス練習



装備点検



日本連盟国際委員会片寄委員列席のもと、日本連盟鈴木理事より派遣員の任命が行われた



激励会ではご家族や団指導者より激励の言葉が贈られた



派遣団長より派遣支給品が渡された



派遣員それぞれの決意表明

アメリカへ

7月18日（火）早朝、ボーイスカウト会館を出発し、派遣団は成田空港へ。

テキサス州ダラス・フォートワース空港でアメリカ合衆国への入国手続と税関申告を行い、アメリカ国内線へ乗り継ぎます。入国審査では人数や渡航歴で通るレーンを振り分けられ、機械で自動化された入国審査に通された人が1人、「キャンプに行くの？おやつ持ってきた〜？」とニコニコ笑顔の入国審査官に当たったのが約半分。あとの半分は公務へ熱心に励まれる入国審査官に当たり、想定問答集を上回るほどだいぶ入念に審査いただきました。これも貴重な体験！



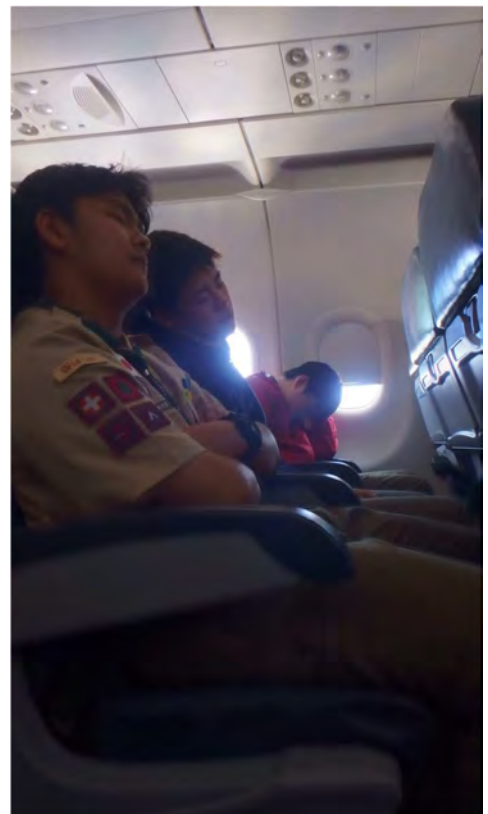
いざ成田空港へ！ボーイスカウト会館を出発！



成田空港からテキサス州ダラス・フォートワース空港まで約12時間のフライトです



テキサス州ダラス・フォートワース空港で乗り継ぎ、ノースカロライナ州シャーロット・ダグラス空港まで、更に2時間のフライトです



ノースカロライナ州シャーロット・ダグラス空港に到着後、バスで空港近郊のホテルに移動。同系列の別のホテルに連れて行かれるハプニングもありましたが、夕方に予定のホテルへ到着。翌朝は9時に出発し、ノースカロライナ州、バージニア州、ウェストバージニア州と約360 kmをバスで移動し、14時頃にサミットベクトル周辺に到着。場外のウェルカムセンターを経由して入場待ちのバスの行列に並び、入場してキャンプサイトに到着したのは15時過ぎでした。



360 km のバス移動！



途中、大型スーパー・ウォールマートで買い出し



入場待ちの車列



周辺道路の電光掲示板
「ジャンボリー車両は右車線へ」



バスに乗り込んできたスタッフ！
心の準備には待ち時間なし！
いきなり英会話スタート

サミットベクテル

2017 ナショナルジャンボリーの会場になったサミットベクテルリザーブは、ボーイスカウトアメリカ連盟が4年前にオープンした常設のナショナルジャンボリー会場です。ウェストバージニア州南部に位置し、おおよそ東西に 8.5 km、南北に 7.5 km の敷地内に、常設のプログラムエリア、ハイキングコース、山、川、湖、自然保護区を含みます。この内、東西に 5 km、南北に 3.5 km のエリアが 2017 ナショナルジャンボリーのメイン会場になりました。

サミットベクテルでは通年さまざまなハイアドベンチャープログラムを展開しています。例えば、ヘルメット&ハーネスコースでは、3日間はヘルメット&ハーネスに特化したプログラムがあり、2日間で奉仕活動と自由選択プログラム、これに入退場日を追加して合計6泊7日のプログラムとなっています。2泊3日のヘルメット&ハーネスのプログラムは、初日に4ー5階建ての高さに相当する人工のクライミングウォールにてクライミングと降下を1日かけて練習し、2日目には自然の崖を登りきる登山を行います。自然の崖なのでホールド（クライミングウォールで掴む人工物）はありません。3日目にはクライミング、降下、ジップラインを含んだ1日がかりの空中アスレチックコースを踏破します。今回のナショナルジャンボリーでは、これらの導入プログラムが選択プログラムとして展開されました。

今回のジャンボリーでは約60カ国から4万人の参加者が集まりました。

ボルダリング、ラペリング、空中散歩、マウンテンバイク（山道走行）、BMX（アスファルト面走行）、スケートボード競技場、アーチェリー、トマホーク（投斧）、ジップラインなどの常設アクティビティの他に、水上障害物コース、スタンドアップパドル、スキューバ、科学実験など、さまざまな選択プログラムが用意されました。

位置関係



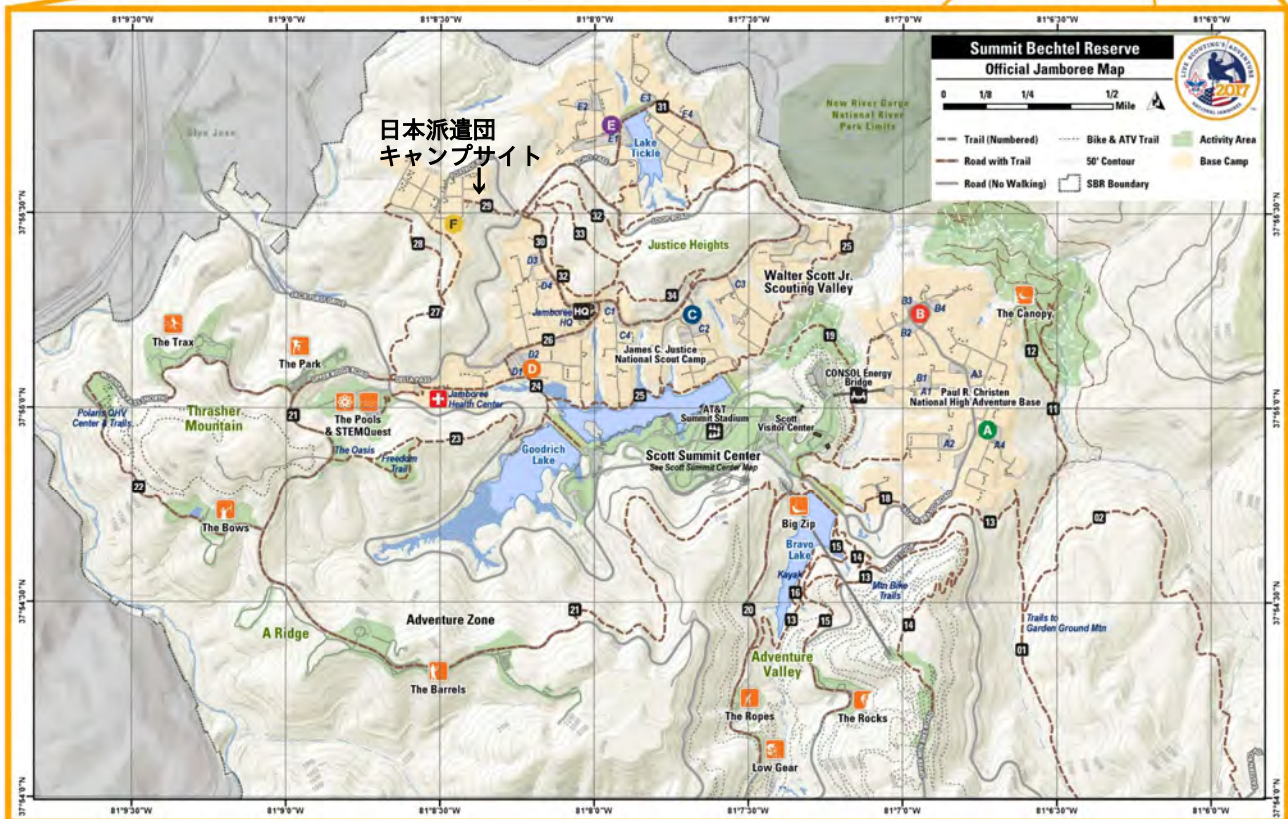
2017 NATIONAL JAMBOREE DAILY SCHEDULE

	Wednesday 7/19/2017	Thursday 7/20/2017*	Friday 7/21/2017*	Saturday 7/22/2017	Sunday 7/23/2017	Monday 7/24/2017*	Tuesday 7/25/2017*	Wednesday 7/26/2017*	Thursday 7/27/2017	Friday 7/28/2017		
Theme	First Day									Last Day		
6 a.m.	Units Arrive 6 a.m. to 4 p.m.	REVEILLE									Units Depart 5 a.m. to NOON	
7 a.m.												
7:30 a.m.		Raise Colors - 12 Points				Raise Colors - 12 Points						
8 a.m.												
9 a.m.												
9:30 a.m.												
10 a.m.												
10:30 a.m.												
11 a.m.												
11:30 a.m.												
Noon												
12:30 p.m.												
1 p.m.	Leaders' meeting Live stream									Staff Begins to Depart NOON to 9 p.m.		
2 p.m.												
3 p.m.												
4 p.m.												
5 p.m.	DINNER											
6 p.m.												
7 p.m.	Base Camp Welcome Activities											Closing Show 6 p.m. - 7:30 p.m.
7:30 p.m.												
8 p.m.		Colors	Worship Services***	Stadium Show 7 p.m. - 9 p.m.	Lower Colors Daily							
8:30 p.m.												
9 p.m.												
9:30 p.m.	TAPS											
10 p.m.	ALL QUIET											
Adventure Areas	NOON - 5 p.m.	8 a.m. - 5 p.m.	8 a.m. - 5 p.m.	8 a.m. - 5 p.m.	Closed	8 a.m. - 5 p.m.	8 a.m. - 5 p.m.	8 a.m. - 5 p.m.		8 a.m. - 4 p.m.	Closed	
**** Summit Center	NOON - 5 p.m.	8 a.m. - 5 p.m.	8 a.m. - 5 p.m.	8 a.m. - 5 p.m.	1 p.m. - 5 p.m.	8 a.m. - 5 p.m.	8 a.m. - 5 p.m.	8 a.m. - 5 p.m.	8 a.m. - 4 p.m.	Closed		
Visitor Hours	None	None	9 a.m. - 5 p.m.	9 a.m. - Show close	1 p.m. - 5 p.m.	9 a.m. - 5 p.m.	9 a.m. - 5 p.m.	9 a.m. - 5 p.m.	9 a.m. - 4 p.m.	None		

サミットベクトル全体図



アメリカジャンボリー主要会場拡大図



キャンプライフ

フォックスロット（F）サブキャンプ内で日本隊が配属されたキャンプサイトは、ロードアイランド州からワッペン交換に闘志を燃やすクールなナラガンセット・カウンシル派遣隊とニューハンプシャー州から和気あいあいとアットホームなダニエル・ウェブスター・カウンシル派遣隊との共同生活になりました。



Fサブキャンプは高台にあり、空が広い！



サブキャンプ本部は隊への連絡を上級班長にします
まずは基本情報が配信されるアプリをスマホに
ダウンロードするよう指示されました



サブキャンプ本部からの指示事項を伝達する上級班長



大会提供の隊旗
キャンプサイトの表札代わり？

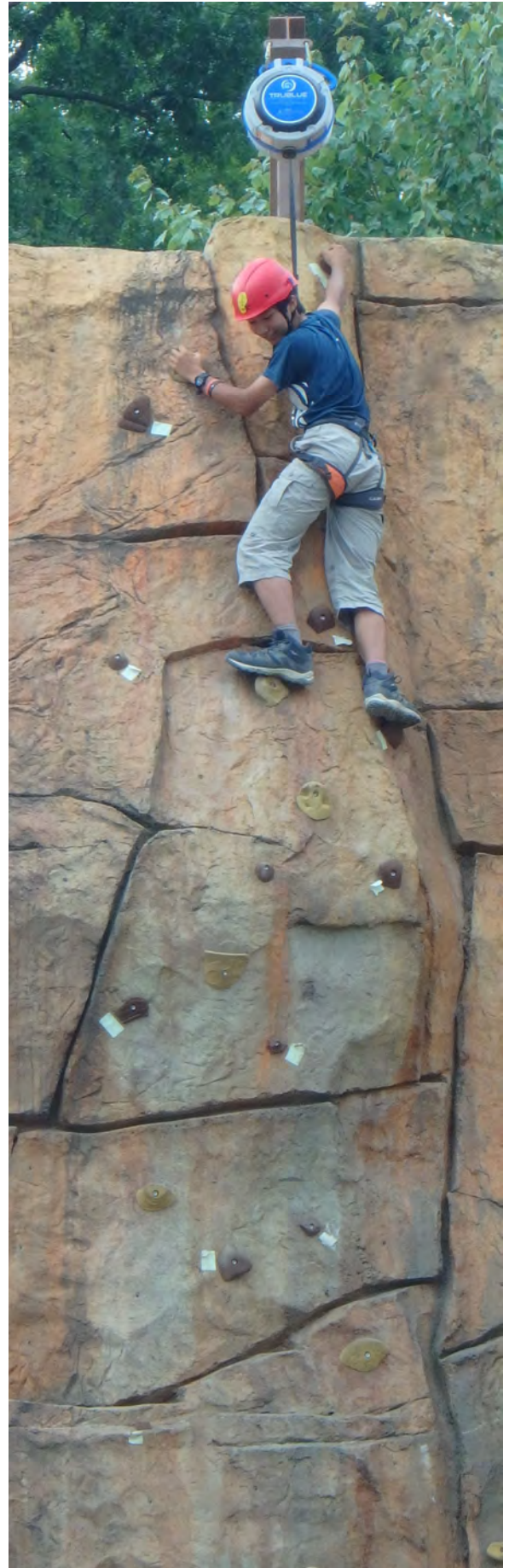
プログラム



場内はひたすら歩く！
サイトからプログラムまで 5km 以上！



ボルダリングとロッククライミング

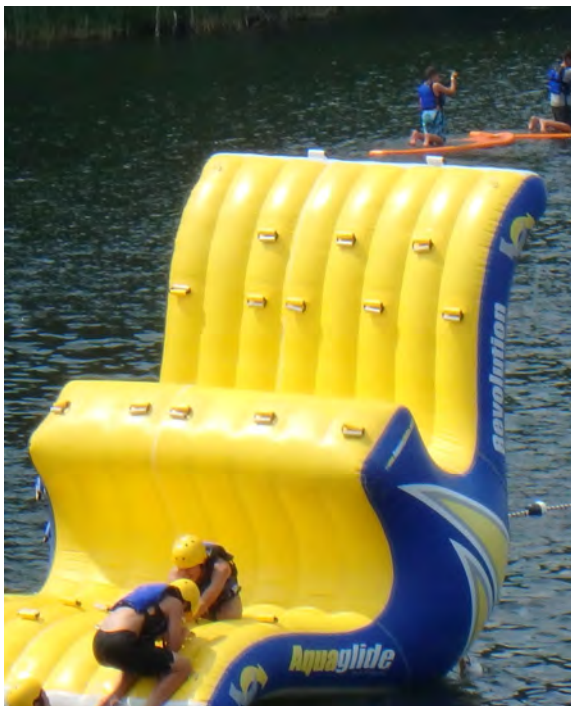




フライフィッシング



スタンドアップパドルボード



班対抗水上障害物競走

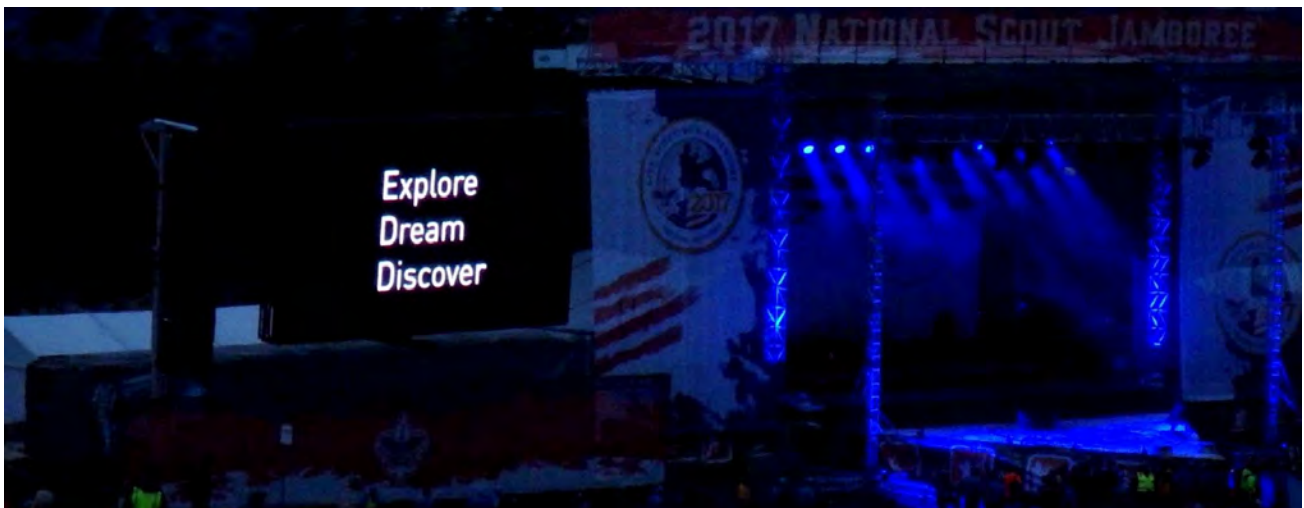




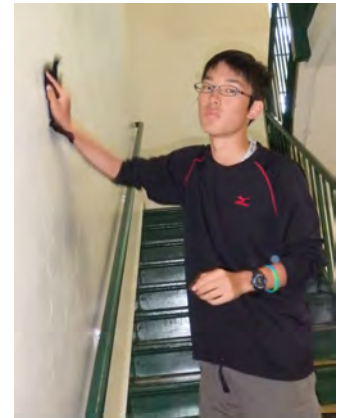
スタジアムショーには参加者4万人がスタジアムに集結しました



日本の国旗も行進しました（写真左上）



奉仕活動



公共奉仕としてチャールストン市内の公立中学校ホレースマンミドルスクールへ清掃奉仕に行きました



生徒1人ひとりにロッカーがありました



アメリカのスカウトと共に雑草と植木を見極めつつ作業



束の間のキャンパスライフ気分



レセプション

ジャンボリーと並行して、サミットベクトルの開拓に寄与した方々との記念式典やレセプションが開催されており、縁あって日本派遣団が招待されました。



連盟本部からピカピカの黒塗り車両でお出迎え！
参加者の地図に記載がない普段は立入禁止の
レセプション会場「WPポイント」へ移動します



日系実業家のジーン・ヤマガタ氏と歓談



マリオットホテルのマリオット会長ご家族と除幕式



ジーン・ヤマガタ氏の除幕式に先立ち、
水野派遣団長の指揮で連盟歌を披露しました



レセプションホールで昼食をいただきました



チーフリングやワッペンなど多くの歓迎もいただきました



WPポイントから望むサブキャンプ

写真では正面が大きく左右は小さく見えますが、それぞれのサブキャンプは同程度の面積です

交流



インターナショナルナイトでは、各国参加隊によるパフォーマンスが行われました



道を歩けば、グッズ交換に呼び止められる



サイト脇はどこも記念品交換所



折り紙で鶴を一緒に折りました



わらしべ長者！予備の制服を交換してもらえた人も

アメリカの隊とキャンプコミッショナーに協力いただき食材を入手し、カレーライスとお好み焼きと2回、日本の食事を紹介しました。



剥く、切る



混ぜる



そして混ぜる



味噌汁の具材を不思議そうに見つめてました



シャモジは Tong で代用



キャンプコミッショナーも招待しました



日本食紹介は好評でした

配給・食事

語学と同じくらい大変だったのは日々の食事と食事当番だったかもしれません。



配給所の入り口で会場内の Wi-Fi を使い
買い物用のアプリを自分のスマホに入れます



アプリでバーコードを読み取り個数を入力し購入します。
購入にはポイントを使い、ポイントは1日毎にリセットされます



配給所内



出口で申告内容と相違無いか
抜き打ち検査があります



クーラーボックス用の氷は申込不要で
配給時に言えばもらえます



見たこと無い食材ばかり 考えていた食材が売り切れの場合
もあるので、その場で食材と献立を考える必要があります



日清の袋麺も、日本とは違うチキン味



卵は液状で
紙パックに入ってます



粒の長いお米は箱に入っていました



アメリカの隊との共同生活なので、朝食は主にシリアルかパン。同じものを昼食に携行します。パンには大体クリームチーズか甘いジャム…



真空パックのサンドイッチ



温めるだけの
フレンチトーストのようなもの



アメリカのドレッシングに慣れず
生野菜が進まない



日中の携行食は糖分高めのお菓子か、
ナッツやチップスなど塩分と油分が多め



甘くないスクランブルエッグに
群がるスカウト



久しい白米に歓喜

退場

12時間で4万人が退場する一大オペレーション。大会に指定された日本派遣団の退場枠は午前5時でした。夜明け前にテーブルや炊具等備品をコンテナ型パレットに収納しサイトの隅に並べて返却。テントは個数を確認し、サブキャンプに置かれた40トントラックへ積み込み返却。キャンプコミッショナーによる撤営点検を受け、午前5時半にバスで会場を後にしました。



前日から片付け



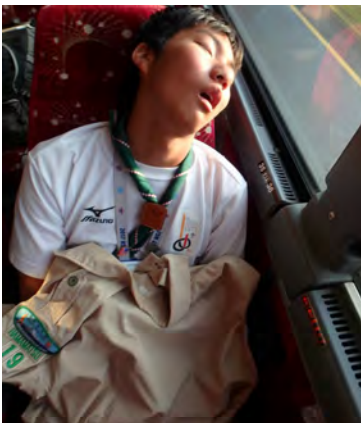
午前2時に撤営



テントは直接トラックへ返却



退場点検を受け、バスを待ちます



バスに乗ったら、しばし休憩



アメリカ連盟でも役員を務める日本連盟
松本評議員に空港まで見送りいただきました

見学

往路と同じく、ノースカロライナ州シャーロット・ダグラス空港へ戻り、空路テキサス州ダラス・フォートワース空港へ移動しました。空港周辺ホテルへ2泊し、ボーイスカウトアメリカ連盟本部のナショナル・スカウティング・ミュージアムを見学し、アメリカ連盟の軌跡をたどりました。また、未だに謎の多いジョン・F・ケネディ大統領暗殺事件がおきた街を歩き、犯行現場とされるシックスフロア・ミュージアムを見学しました。



ダラス・フォートワースへ



ケネディ大統領が銃撃された現場を歩き
アメリカの歴史に触れました



移転直前のアメリカ連盟ミュージアムを見学



当時の大統領専用車（レプリカ）



ミュージアムは入場料無料ですが
来場者の善意で支えられています



ファストフードではない
本場アメリカンサイズのバーガーも体験しました

帰国

朝8時にホテルを出発し、ダラス・フォートワース空港へ。約13時間のフライトで成田空港へ帰国しました。
派遣団長と隊長からそれぞれに言葉が贈られ、2017アメリカジャンボリー派遣日本派遣団は解団しました。







総員 12 人の日本派遣団は 2017 年 7 月 18 日日本を出発しウェストバージニア州サミットベクトル会場で 7 月 20 日から 27 日までナショナルジャンボリーに参加し 7 月 31 日全員無事に帰国致しました。

スカウト 9 名は派遣直前 2 日間の準備訓練を終え、日の丸を胸に掲げている責任感と自ら考えて来た課題を達成すべく、健康と安全を保ちつつジャンボリーに参加し、各国のスカウトとの交流や各種プログラムに参加して大きく成長したと感じました。日本隊は嶋田寛隊長以下、大高駿団長付き石井柊上級班長、鶯班、雷鳥班各 4 名で編成され、規律正しくまた朗らかに良きチ

ームワークをもって積極的に活動をしていました。

大会は、10 年前から開発しているウェストバージニア州の全敷地 14,000 エーカー（57 km²）におよぶ広大な大自然の山中にアメリカのスカウト活動の拠点として開発され、いよいよ 2019 年の世界スカウトジャンボリー開催に向けてのテスト大会として運営されました。

参加スカウト 3.5 万人、ボランティア 7 千人、4.2 万人規模の大会運営に携わるスタッフの資格をいただき、毎日のように会場の隅々まで見学し解説をしてもらい、知識の無い私にとって大変素晴らしい経験をさせていただきました。

6 か所の広大なサブキャンプは A から F と名付けられ、日本隊は約 40 か国の外国隊とアメリカ隊で国際サブキャンプが編成されていました。サブキャンプ E はジャンボリーを運営するボランティアスタッフが居住しました。

中央に位置するグッドリッチ湖の南岸にサミットセンターが設置され、持続可能性をテーマにしたツリーハウスやショップをはじめ多くの個別テントが張られ多くのスカウトを集めていました。湖の北側には最大 8 万人を収容できる開閉会式をはじめイベントを行うスタジアムと呼ばれる広大なアリーナが配置されています。

スカウトが参加できる 27 のプログラムが広く設置されていました。高い所からワイヤーに輪を引っ掛けて滑り降りるジップラインが 3 か所、アーチェリー、射撃、マウンテンバイク、スケートボード、パドルボード、潜水、樹林の中をロープや吊橋などで自由に活動するキャノピー、ロッククライミング、ハイクとマウンテンバイクのトレイル、そしてウェストバージニア大学が支援して実験を中心に自然科学系を学ぶ STEM（サイエンス・テクノロジー・エンジニアリング・マスマティックス）などが準備され、それぞれの専門インストラクターが安全を確認しながら運営していました。

会場内で約 30 か所に施設の寄付者（寄付者一人につき最低 2500 万ドル）の銅像を建てられ、各所で除幕式が行われました。日系 2 世のジーン・ヤマガタ氏による寄付でこれから建設される宿泊ロッジ、レクチャーを行える大規模教室、庭園の予定地周辺で行われた銅像除幕式に日本隊も招かれ、全員で連盟歌を斉唱してお祝いし、大変喜んでいただきました。

この大会はボーイスカウトアメリカ連盟が主体で円滑に運営されていますが米軍の多大な支援も受けています。ウェストバージニア州の州兵軍は陸海空軍、海兵隊、沿岸警備隊で編成されており、ジャンボリー会場に隣接していることもあり、防衛軍は災害対応訓練としてジャンボリーを支援したとのこと。司令部のオペレーションルームでのブリーフィングも見学させていただきました。スカウトと軍の担当者が当日のオペレーションについて大きな画面に必要事項を投影して説明をしていました。天候、スカウト運営本部、混合医療活動、情報連携、総務活動、輸送部門、保健指令（気温を計測しそれぞれの気温ごとに特に高い時はサブキャンプごとに隔々まで届く音量で警告と対応が指令されます）、そしてウェストバージニア州との連携報告があります。各担当は①当日基本対応策、②次の 12 時間対応、③その後 48 時間とそれ以降、④問題点とそれぞれの要素について簡単にブリーフィングをし、質問があれば答えます。そして最後に軍の担当将軍から当日指令が出され解散します。

医療班は各サブキャンプに設置されていましたが重症者対応や手術が可能な大規模な医療施設もあり、将来は病院が建設されることになっています。加療が必要な重症者を運搬するドクターヘリも待機していました。

天候にも恵まれ大きな事故もなくジャンボリーは成功裏に終了しました。

帰路、アメリカ連盟のあるグラスでスカウト博物館に立ち寄り、アメリカ連盟からイーグル章を取得している大高駿君からボーイスカウトの歴史や細かなスキルまでわかりやすい解説を受け、感銘を受けるとともにスカウト活動の理解を深めました。

最後に、派遣の準備から事細かに交渉をして現地でも多大なご協力をいただきアメリカ連盟の役員及び日本連盟の評議員でもあられる松本仁さんに心よりお礼を申し上げます。

過去3回の世界スカウトジャンボリー参加経験はあるものの、海外ナショナルジャンボリーは昨年の韓国ジャンボリーが初めてでした。2年後の世界スカウトジャンボリー実行委員会メンバー拝命をきっかけに、同一会場で開催されるアメリカジャンボリーに隊長として参加することで、参加スカウトの成長支援と、2年後に向けての課題の探求することを目的とし、初めてアメリカジャンボリーに参加する決心をしました。

派遣隊は2日間の事前訓練、10日間のジャンボリー、および4日間の移動と社会見学を含め合計16日に及ぶため、指導者3人とスカウト9人が明確な役務分掌のもと、事前訓練時にバディで相談し合った個人課題の解決と、アメリカならではの広大な敷地を利用した各種アドベンチャープログラムに挑戦しました。生活はインターナショナルサブキャンプに配置されニューハンプシャーおよびロードアイランド隊との協働となりました。ジャンボリー終了後は、ダラス見学としてシックスフロア博物館とフィルモントへの移転が決まったボーイスカウト博物館を訪問し、歴史や背景を勉強しました。

一連の派遣体験をとおり、スカウト達は解決すべき課題と目標をもつことと、成功するまで諦めない大切さに気づき、今後のスカウティングに活かす自信がついたと思います。片道30分以上歩かなければたどり着けないプログラム会場への往復の繰り返し、毎日訪問して来られるキャンプコミッショナーの要請のノー日本語デイの無茶振り、インターナショナルデイでの演出や日本食の提供をチーム一丸となって完遂できたことは、成果の一端と思います。

今回体験した大会運営やロジスティックスには多くの学ぶべき点もあり、今後に活かしたいと思います。派遣終了にあたり、過分なご支援を賜りました方々に感謝します。



派遣準備訓練の中で、この派遣をとおして解決したい個人の課題、達成したい目標などを定めました。帰りの飛行機の中で書いた報告は、楽しかった・すごかったの感想で終わらないよう、従来の感想文の形式を取らず、課題や目標への取り組みを報告してもらいました。

埼玉県連盟坂戸第1団ベンチャースカウト 石井 柊

成功の反対は挑戦しないこと。挑戦しなければ失敗さえも生まれない。これはジャンボリー期間中に派遣隊長が我々スカウトに向けて送ってくださった言葉です。ジャンボリーはもとより、ボーイスカウト活動そのものが挑戦ありきで成り立っているということを痛感したのはこれを聞いてからのことでした。以下に記すのは、私がこの言葉を胸に遂行した活動の記録、および本ジャンボリー中の目的とそれに対する自己評価です。先にご紹介した隊長からの言葉と共にご覧ください。

<ジャンボリー参加の目的>

- 海外のスカウト活動や、その社会的地位を知り、良い点を日本に広げる。
- 現在大学受験に向けて勉強していることから、語学力向上のため友達作りを兼ねて積極的に英語を話す。
- スカウトとして参加することのできる最後のジャンボリーであることから、この機会を謳歌する。

<活動記録>

7月19日(水)会場到着：到着後、荷物整理

7月20日(木)ハイキング：野営場内25kmハイキング。場内を知り、仲間と親交を深めた。スケートボード：会場内のスケートパークにて行った。

7月21日(金)ジップライン：山の上からサミットセンター付近へ下っていく全長800mのコース。ロッククライミング：数種類の壁が用意された大規模なクライミングパークで行われた。インターナショナルキャンプファイヤー：アメリカ以外の各国のスカウトがそれぞれの伝統芸能を披露した。我々日本はソーラン節を踊り、素晴らしい反響を得た。

7月22日(土)ウォーターリアリティ：会場内の湖に設けられた水上アスレチックの様な施設にて行われた。並の人間ではこなせない。アリーナショー：参加者が一堂に会し、歌や音楽と共に素晴らしい時間を過ごした。

7月23日(日)キャンプも折り返しということで、この日は休息日とし、全員がサイト内で過ごした。

7月24日(月)メッセンジャーオブピース：ウェストバージニア州内の中学校にて、壁拭き、ゴミ捨て等の奉仕活動。全体集会：現アメリカ大統領、ドナルド・トランプ氏を迎えての大集会。

7月25日(火)レーザーガン：会場内のレーザーガン体験場にて行われた。アーチェリー：会場内の施設にて行われた。様々な設備が備わっており、初心者にも充実したサービスが提供される。

7月26日(水)セレモニー：ボーイスカウトに25億円の寄付をいただいたヤマガタさんをはじめとする様々な人の隣席の下に行われた記念式典。食事：この日の夕食では、日本を代表してアメリカのスカウト達に好み焼き、鶏丼、味噌汁をふるまった。

7月27日(木)この日は昼間から雨が降ったため、全員荷物の整理と一部撤営を行った。

7月28日(金)最終日ということで、出発時間の5時に併せて3時に起床、撤営を終え、バスに乗車し仲間との別れを惜しみながら会場をあとにした。

<自己評価>

結論から述べると、個人的には多くの収穫が得られたものと思っています。海外のスカウトと同じサイトで生活を共にして、彼らの個々に主体性を見出すキャンピングを学びました。これは日本のスカウト活動に欠く点であり、海外の素晴らしさであると思います。語学力向上に関しては、積極的に話す機会を設け、このジャンボリーを有意義な学びとすることができました。最高の夏に最高のメンバーと最高の思い出をつくることができました。この機会を与えてくれたすべてに感謝です。



自分は地区のコミッショナーからこの派遣の話を聞き、参加しました。派遣員の集合の当日、1度も顔を合わせたことのない他の仲間のことを考えながらボーイスカウト会館に向かいました。準備訓練が始まり、自分はリーダーシップを養うという目標のもと、班長に立候補して鷺班の班長となり派遣団員に任命され、アメリカへと派遣されました。自分は今までに海外に行ったことがなく、あらゆることが初めてでした。アメリカに入国した後、ジャンボリー会場に入場し、まだ全員が探り探りの中、2017アメリカジャンボリーがスタートしました。

翌朝にはいきなりハイキングで、まだ自分のことで精一杯で班員や周りに気を配ることができていませんでした。そんな中、上級班長の指示のもと、プログラムをこなしていきました。4日目あたりからは段々と周りのことにも考えが回るようになってきて、班員それぞれのことも把握してきました。そして自分は指示する回数も増えてきて、班員はそれに応えてしっかりと動いてくれました。ジャンボリー後半には少し慣れてきて気が緩んでしまったところもありますが、他国の人との交流も増えました。一生に一度であろう体験を数多くさせてもらい、興奮の最中にジャンボリーが終わりました。

ジャンボリーの期間での目標達成度はそこまで高くありませんが、今回の派遣で得た経験は非常に濃密で自分への大きな糧となりました。新たに沢山の欠点や課題が見つかり、また良い点も少し見つかりました。今回の派遣に行くにあたって関わっていただいたすべての人、物に感謝をして、自分自身がこれからも成長し続けるように精進し、今回得たことを他の人々にも伝えます。さらに、今回は数多くのイーグルスカウトと交流をし、富士スカウト章への意欲を再確認しました。これからも沢山の経験を積みアメリカのイーグルスカウトに負けないくらいのスカウトになって、2年後には世界ジャンボリーでISTとして参加できたら良いなと思っています。



アメリカジャンボリーを終えて

＜アメリカジャンボリーに参加しようと思った理由＞

- アメリカという、日本とは違った大自然の中でキャンプをしてみたいと思ったから。
- 海外に行ったことがなく、生でネイティブを聞いてアメリカ人と直接ふれあいたいから。

＜ジャンボリーでの目標・課題＞

1. 英語を派遣前よりもスムーズに話することができるようにする。
2. アメリカ独自の文化を発見して、理解する。

＜その課題の成功度＞

1. 英語は派遣前と比べると、前よりも頭のなかで日本語から英語に置き換えるスピードが少し早くなった。そして、積極的に英語を話すことが増えた。
2. 日本ではありえない、または、日本人だとしなくてあろうことがたくさんあった。そして、国際理解の幅も広がった。

＜ジャンボリーの感想＞

- 色々なことが初めての体験だったので、毎日がドキドキワクワクだった。ウォーターリアリティとアーチェリーは中でも印象強く残っていて、楽しかった。
- トランプ大統領やマリOTTホテルの会長、ヤマガタさんなど、滅多に顔を合わせることでできない方々にお会いできたのはすごく貴重な時間を過ごせたのでうれしかった。

＜今後について＞

- 今回の経験を活かして、将来は英語を使う仕事に就きたいと思う。
- ジャンボリーで得た知識を自分だけでなく、後輩にも受け継いでいきたい。



私がこのアメリカ派遣に参加しようと思った理由は、自分のためになり今後のボーイ活動での経験になると思ったからです。

今回の大会全体を見ての感想は、日本とは比べ物にならない広大な山や谷がキャンプサイトを囲み今まで人生で見たことのない外国の方々と話せる機会でした。自分にとって未開の地ということもあり、やることすべてが初めてにつつまれていました。

この長期にわたるキャンプの中で自分が体験できたことを少し紹介します。

まずプログラムについてです。プログラムは、ロッククライミング、スキューバ、マウンテンバイクなどとても楽しく、意外と簡単にできる遊びもいっぱいありました。しかし、今回は、ただ単に遊んでいるのではなく、ローパー隊などが行う6日ほど行う超過酷なキャンプの簡単な模擬体験をする場所というところに一番惹かれたのでより深い味わいも出てきました。

キャンプ中の主食として小麦粉を使ったパンが主だったので、その点は日本人と違い文化の違いを体験することができました。キャンプ中の夕食担当を日本は二回しました。その時に作ったタイ米やインディカ米をつくり食べた時のお米が口の中に広がる感じがした時、少し泣けてきました。

この派遣での自分が立てた目標は、外人と話し、少しでも話し相手に自分の気持が伝わるようにすることでした。すべての人に自分の意思が伝わったかと聞かれるとだめですが本当に3人ほどは、身振り手振りですが伝わったようでその内の1人はSNSも交換できました。ですので、今回の派遣の目標は、大成功かは分かりませんが成功することはできました。次の私の目標は、英語をもっと理解して、もっと話せるようになり、世界ジャンボリーの派遣員として選ばれることを目標にしたいと思います。



そして最後に、今後自分の経験をとおして、どのように後輩に伝えていこうかということ、団長や隊長、団長付きから教えていただいたありがたい言葉を集会などで話し、仲間が教えてくれたスキルをキャンプで実践していき周りの後輩だけでなく自分もまたレベルが上がるようにしていきたいと思います。

<ジャンボリーを通しての感想>

今回、アメリカジャンボリーに参加し、最も感じたことはコミュニケーションの楽しさである。僕は、英語が話せないし、聞き取る自信もない。だが、海外のスカウトもみんなが日本語を話せるわけではない。そのため、互いに何とかして、身振り手振りで自分の意思を伝えようとする。そして、その意志が相手に伝わって、相手を理解できた時の喜びが忘れられない。言葉が違っていても、スカウト同士通じ合えることを実感した。また、アメリカの広大な大自然を使用したハイアドベンチャーのプログラムは日本では体験できないと思う。

僕は、自分の団に帰ったら自分が見て、感じたことを後輩のスカウトに伝えようと思う。コミュニケーションの楽しさ・エキサイティングがプログラムはもちろんだが、特に、スカウトが一体となって盛り上がる全体イベントの熱気・感動を伝えたい。

僕も、自分で立てた課題の反省点はまだまだある。今後も、このような大きいイベント（フォーラム、ジャンボリーなど）には積極的に参加していきたい。

<目標に対しての感想>

23WSJのリベンジはできた。あの時よりかなり積極的に交流したくさん交換して、写真も撮れた。反省点は比較した時に外国隊に理由を聞くことができなかったことだ。次はコミュニケーションと英会話し自分の地域のスカウト活動を紹介できるようにしたい。



2017年アメリカジャンボリーを終えて

＜行く前に定めた目標＞

1. バッジ交換やアクティビティを通じてより多くの外国人とコミュニケーションを取る
2. 日本の文化や行動と海外のものとの違いを見つける

＜目標を行ってみて分かったこと＞

- 学校で習ったリスニングや文法がほとんど役に立たなかった。方言(?)のようなものが混ざっていたため、同じ英語でも違う言語を聞いている気分だった。しかし、文頭や分かる単語に注目して聞いてみると、おおよそ意味を捉えることができたものもあった。意味がわかる、分らないの比率は約2:8だった。
- 朝から食べるご飯がとても甘いということ。シリアルやパン、ベーグルなど各自好きな食材を取っていたりしてみんなで同じものを食べないということ。
- キャンプサイト内では裸足で行動していることが多く、ハンモックなども使用していた。
- 文化の違いかは分からないが、スカウトペースが速かった。

＜終えてみて出てきた課題＞

喋りかけてくれたり色々質問してもらった外国人の方に対して、言っていることが分からなくて曖昧な返事をしたり、「分かりません」と答えたことが多かった。自分の英語力の無さを痛感した。なので、すべてでなくていいから相手の言っていることが分かるくらいの英語力を身につけることが、私の今の課題である。



もしかすると、初めて言うことになることかもしれません。私はジャンボリーというものに今まで参加したことがありませんでした。日本ジャンボリー、世界スカウトジャンボリーとともに参加できず、これが本当に初めてのジャンボリーで、楽しい気持ちと不安な気持ちを一心に背負ってジャンボリーに参加しました。

このジャンボリーのために前々からプロジェクトを計画しており、その内容は日本人とアメリカ人にあらかじめ用意した質問を交えつつ会話をし、日米の文化比較をするというものでした。目標は10人のアメリカ人とコミュニケーションをとると設定して、毎日段階的に行う予定でした。ですが、初参加ということもあり、なかなか上手にはいかず、4日目まではハイキングや立て続くプログラムに追われ、ジャンボリーの空気感、雰囲気慣れることが精一杯でプロジェクトには手が回りませんでした。その間にもバッジ交換などでアメリカ人と話す機会はあっても、なかなかプロジェクトの話を切り出せず、少し話をしていても、発音が悪くて聞き取ってもらえない、相手の話していることが聞き取れないという事態となり、もちろん予想はしていましたが、まさか、ここまで上手にいかないのかと、自分の英語力の痛感し、今まで日本で何をしていたのだと自分を叱りたくくなるような思いでした。しかし、5日目は、怒涛のプログラム続きも少しお休みでのんびりと過ごすことになりました。プロジェクトをするのはこの日しかないと思い、必死で10人と話しました。5日目にもなると耳も慣れ、当初の話すだけで質問に答えてもらうことはできませんでしたが、なんとか終わらせることが出来ました。

このとき本当にアメリカ人の優しさを感じました。アメリカに行くまではアメリカ人は無愛想で、質問なんか答えてくれないかなと不安でいましたが、実際はアンケートを快く引き受けてくれたり、陽気に接してくれました。もちろん、このプロジェクトはアメリカ人だけでなく日本派遣団のメンバーの協力が不可欠でした。みんな本当に個性的で楽しいメンバー達で自分のプロジェクトも容易に進めることができました。このジャンボリーは言葉の上だけでなく、本当に一生の思い出に残る派遣でした。

安直な締めですが、またジャンボリーに参加したいという気持ちが強く残っているので次の日本ジャンボリーになんとしても参加したいですという言葉で感想文を終わりたいと思います。



「2019年WSJに行きたい！」

この一言をカブ、ボーイに言わせてやろう。俺が良い体験をたくさんして、持ち帰ってやる、という思いで、今回派遣に挑みました。

今回、記録はこの派遣団の中で一番したと自信をもっていえます。少しでもジャンボリーの雰囲気伝えようと毎日150枚ほどの写真を取るように心がけました。それは、今回の自信の変わろうとするコミュニケーション力を高めることにもなったと思っています。

初日、普段聞きなれない英語に放り込まれ、これまで持っていた「積極」という気持ちが薄れ、楽しみの中に不安が生まれてしまいました。「英語のテストで50点しかとれない奴がどうしていこう」そう思っていました。しかし、2日目、3日目、ジャンボリーの雰囲気に徐々に慣れていき、自分からタイのかわいい子と写真を撮ってもらった時は、「俺、できる」と一気に自信がついたのを覚えています。

広大なキャンプ場でここでしかできないことを多くでき、説明も、返事を交えながらコミュニケーションを自分から取れるようになりました。

驚くことも多くありました。それは、日本のサイトに、外国のスカウトが多く来たことです。しかも、ワッペンなどを交換するときには、積極的すぎることに日本に興味をもってきているようで嬉しくも思いました。清掃のボランティアでは、アメリカのボーイスカウトの地域での信頼、活動の広さにはとても印象を受けました。

アリーナショーでは、世界のスカウトのすばらしさ、楽しさがとても伝わってきてとても良い体験ができたと思っています。

今回、派遣に参加して、得られたことの一つを書き留めようと思います。

その一つは挑戦せずして自信をなくしては成功するものも成功しないということをしれたということです。

最後に、隊長が言った「夢なき者に成功なし」僕にはとても驚いた言葉です。そして今、僕はカブ、ボーイに「夢」を与えられる側にいる、そのことを誇りに思い今回の派遣に関わった人たちに恩返しできる活躍をこれからもしたいと思うようになりました。



私が今回のアメリカジャンボリーに参加した理由はスカウトとして参加できる最後の大会でそして広島スカウトとして行いたいことがあったからです。

まず今回の大会のプログラムの感想としては、ロッククライミング、アーチェリー、ウォータープログラムは初めての体験でアメリカのジャンボリーだからこそできたことだと思いました。他にも各国スカウトが集まって行ったキャンプファイヤーは、さまざまな国の代表する遊びやショーなどを見てそして我々はよさこいを披露しました。ミスもありましたが皆盛り上がってくれて良かったです。そして今回私が個人プロジェクトとして持ってきたアメリカのスカウトと協力して千羽鶴を作るという目標がありました。最初は不安で一杯でしたが同じサイトのアメリカスカウトの方々、日本派遣隊のスカウトが協力してくれました。他にも隊長方のアイデアにより道に折り鶴を折るためのブースを作りました。折るスペースが空くの待つ行列ができるほど多くのスカウトが協力してくれ、千羽には届きませんでしたが、目標の半分五百羽を折ることができました。私にとってこのプロジェクトはとても重要で、今までのスカウト人生において最大の計画ともいえます。多くの人に協力してもらった鶴を手元に残せないのは少し残念ではありますが、8月6日に平和公園に奉納したいと思います。

最後に今回のアメリカジャンボリーは、自分にとって初めての事が沢山ありました。楽しいこともありました。今度は、それを自分が後輩スカウトに伝え今後多くのことに挑戦していくことの楽しさをスカウト活動を通して実感してほしいと思いました。

これから私は指導者の立場になったとき私がしてもらったように次は後輩スカウトにも私と同じスカウト活動を心の底から楽しいと思ってもらえるように残りのスカウト活動で多くのことに挑戦して行き様々なことを経験していきたいと思います。



あとがき

本派遣の実施にあたり、日本派遣団の受け入れに尽力いただいたダニエル・ウェブスター派遣隊およびナラガンセット派遣隊の指導者のみなさま、困ったことがないか1日に何度もサイトを訪れスカウトに声がけいただいたフォックスロットサブキャンプ国際担当コミッショナーのみなさま、そして派遣団のロジスティクスにご支援賜りました松本仁さんに感謝いたします。また、派遣が実施できるのはご家族と各隊指導者のみなさまから日頃の支援があってこそです。末筆ながらここに感謝申し上げます。

派遣団長付 大高駿

2017アメリカジャンボリー派遣日本派遣団報告書

2018年3月 発行

発行



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

〒113-8517 東京都文京区本郷 1-34-3

電話 03-5805-2561（代表）

FAX 03-5805-2901（代表）

